

- 記者発表資料 -

日本初の震災復興事業として、横浜港新港埠頭岸壁群が【土木学会選奨土木遺産】に認定されました！

国土交通省関東地方整備局及び横浜市が所有する「横浜港新港埠頭岸壁群」(横浜市中区)が、令和2年度の土木学会選奨土木遺産に認定(9月28日)されました。

横浜港新港埠頭は、1905年(明治38)に完成した埠頭方式岸壁と陸上施設(荷役施設、倉庫、鉄道、道路、税関)を完備した日本で初の近代的な埠頭です。

関東大震災[1923年(大正12年9月1日)]により、横浜港新港埠頭は壊滅的な被害を受けましたが、我が国初の震災復興事業として、わずか1.5年という短期間で復旧し、その後の横浜港及び日本の発展に大きく寄与しました。

名 称： 横浜港新港埠頭関東大震災復興岸壁群

評価された点： 被災した岸壁の復旧方法は、当時知見が無いなかで実施した震災復興事業であること。

評価された技術： 水中コンクリートや袋詰めコンクリートの建設技術や船舶掃海技術、海中障害物撤去技術等の先駆けとなった。

施 工 期 間： 着手◆大正12年11月～竣工◆大正14年3月 約1.5年間

施 工 主 体： 内務省横浜土木出張所、横浜税関

※土木学会選奨土木遺産の認定制度とは

土木遺産の顕彰を通じて、歴史的土木建造物の保存に資することを目的として、平成12年度に創設されました。(Webアドレス http://committeesjsce.or.jp/doboku_isan/)

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、横浜海事記者クラブ

お問い合わせ先

関東地方整備局 港湾空港部

海洋環境・技術課 課長

海洋環境・技術課 課長補佐

たかはし みつよし

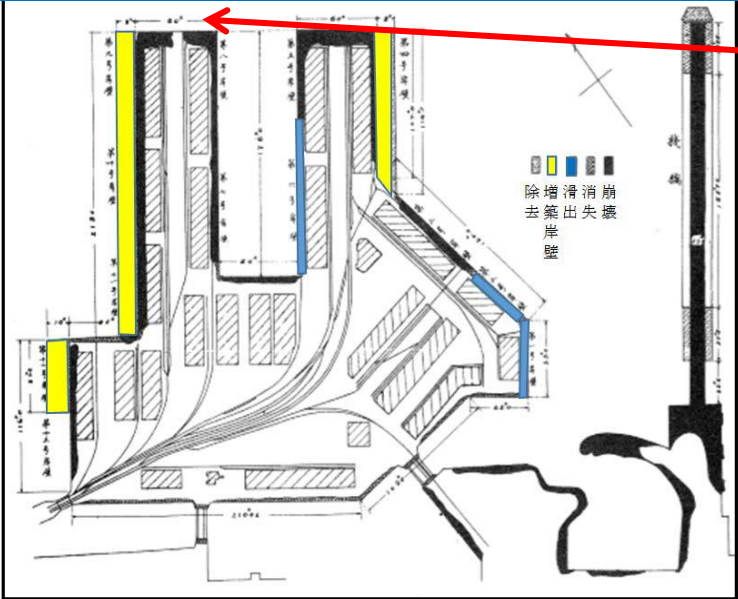
高橋 三吉

さとつ たつや
佐藤 達也

電話 045-211-7420

FAX 045-211-0204

関東大震災による横浜港新港埠頭の
被害と復旧工事平面図



新港埠頭のハンマヘッド
クレーン付近の被災状況



現在の新港埠頭

